

上尾市スポーツ少年団野球部会約束事

1. 共通事項

- 1) 毎月の代表者会議は、定刻（原則として毎月第1土曜日午後6時00分）に開催するので遅れないこと。
- 2) 各大会の試合会場については、各団協力してグラウンド確保に努めること。
- 3) 試合会場では、試合終了後、ベンチや応援席のゴミ屑等を片づけて退場すること。
（公共施設、小学校はすべて禁煙。万一、たばこの吸い殻を見つけたら必ず拾って帰ること。）
- 4) 試合会場に駐車する場合は、[上尾市スポーツ少年団 チーム名]を記載し、フロントガラス越しに見える車内に必ず備えること。指導者、母集団、応援の家族等すべての関係者に徹底すること。
- 5) 各団(チーム)は野球部会の要請に従って、以下の係員を派遣する。
 - ① グラウンド整備係…グラウンドの設営は原則として野球部会事業部役員(委員)が中心となり行っているが、秋季大会については高学年・低学年大会の同時開催に併せリーグ戦を行うこととしているので、同一開催日に他の大会より多くの会場設営を行う必要があることから、各団(チーム)は秋季大会に限り、次のとおりグラウンド整備係を派遣する。
 - ・グラウンド整備係は、自チームの試合が行われる会場に集合し、野球部会事業部役員(委員)の指示の下、同役員(委員)と協力し試合会場設営を行う。
 - ・グラウンド整備係は、当該会場で試合を行う各チームから1名(団単位ではなくチーム単位で1名)とする。ただし、試合会場が上尾市民球場の各チームは派遣を要さない。
 - ・集合時刻は、当該会場の第1試合開始予定時刻の1時間前に集合する。
ただし、大会初日の場合は開会式開始1時間前とする。
 - ・第1試合開始後、グラウンド整備係は解散する。

※試合の合間のグラウンド整備は、試合を終了した両チームと野球部会事業部役員(委員)が協力して行い、次の試合をするチームに引き渡すものとする。

※当該会場の最終試合終了後は、本部席の撤去、グラウンド整備、現状復帰は、最終試合を行なった両チームと野球部会事業部役員(委員)が協力して行なう。

サッカーゴールやバスケットゴールを移動した場合は、くるいなく元の位置に戻さなければならない。
 - ② 記録係…自チームが行なう試合の記録係として、各チーム1名、メンバー表を提出する監督、主将に同行し、ネット裏の本部席に集合すること。(上尾市民球場の場合は各チーム2名)
記録係は選手登録用紙と当日提出のメンバー表の照合を行う。(当日のメンバーが、背番号を含め登録選手であることを確認する。)背番号と試合用具の確認は、

審判部が行う。

- ③ 塁審…審判については、審判部が行うものとする。ただし、秋季大会等においては、主審のみ審判部が行ない、塁審は、各チームが分担することがある。詳細は、各大会前の代表者会議で確認、決定する。
- 6) チーム構成の登録人数は最低 11 人とする。
選手登録の変更は認めないことから、選手登録用紙を提出後に入団した選手は大会に出場（ベンチ入り）することはできないが、開会式への参加は認めることとする。この場合、ユニホーム以外での参加は止むを得ないが、帽子は統一のものを着用すること。
- 7) 土曜日や雨天延期などで予定が変更になった場合など、登録した監督の都合がつかない場合は、登録指導者（7 名以内）の中から監督を選出する。ただし、当日、試合前に大会本部に報告すること。大会本部から相手チーム監督および当該試合の球審に連絡する。
- 8) 秋季大会に限り、最低 11 人の登録があれば、Aクラス、Bクラスごとに 1 団 2 チーム以上の出場を認めるものとする。ただし、どのような場合であっても同一選手及び同一指導者のダブル登録は認めない。
- 9) チーム構成ができない団については、チーム構成ができない他団との合同チームは認める。その場合、ユニホームはお互いの所属団のものを使用しても良いが、背番号は、同じ番号を付けないこと。
- 10) 試合後の挨拶はホームベースを挟んで行い、その後は直ちに自軍のベンチに帰ること。
(相手ベンチ及び本部の挨拶は不要。ただし、ベンチに入っている監督、指導者全員は、ベンチ前に整列し、選手と一緒に試合前及び試合後の挨拶を行う。なお、応援席も起立のうえ、監督指導者選手に同調し、挨拶を行う。)
- 11) ベンチの座席については、各グラウンドで用意した椅子を使用する。ただし、スコアを記載するためのテーブル・椅子の使用は差支えない。
- 12) 捕手については、試合前の投球及びシートノック中もヘルメット、レガース、プロテクター、ファウルカップ、マスクを着用する。（控えの捕手も、投手の投球を受ける時には、防具を着用する）なお、低学年のファウルカップは、着用が望ましい。
攻守交代時の準備投球は捕手が受けるものとする。ただし、捕手の防具着用が遅れる場合は、試合進行を遅らせないため控えの捕手が準備投球を受けることができるものとする。
控えの捕手は速やかな対応ができるよう、あらかじめ防具を着けておくよう努める。
- 13) リーグ戦の大会については、次のとおりとする。
 - (ア) 規定時間又は規定回数を過ぎて同点の場合、タイブレイク、特別継続試合は行わない。（なお、時間内延長戦は実施する。）
 - (イ) 勝敗については、下記の勝ち点を与える。

1. 勝ったチーム 2点
2. 引き分けたチーム 1点
3. 負けたチーム 0点

(ウ) 勝敗の順位については、勝ち点の多い順とする。

(エ) 勝ち点と同じ場合の順位については、次のとおりとする。

1. 相対の結果による。
2. 失点差による。
3. 相対が引き分け、又は不戦で、失点と同じ場合は、キャプテンの抽選による。

14) 試合の準備

(ア) メンバーチェックと道具チェック

審判部による試合開始前のメンバーチェックと道具チェックは次により行う。

① メンバーチェック

- ・当日ベンチ入りする選手、監督、指導者のメンバーチェックは、原則として大会本部が受理した「選手登録用紙」により行う。
- ・確認を受ける選手は、背番号 10 を先頭に番号の若い順に整列する。確認する審判員は整列した選手の背番号側に立ち、登録票に記載の背番号を読み上げる。該当する背番号の選手は、審判員の方に向きを変え、大きな声ではっきりと自分の氏名を告げる。
- ・審判員はメンバーチェックの際、大会規則Ⅲに定めるユニホームを着用していることを確認するほか、次の確認を行う。
- ・ユニホームのズボンの裾はおろさずに内側へ折り返し、ふくらはぎから下はストッキングが見えるように着用していること。

② 道具チェック

バット、ヘルメット、捕手の用具について、大会規則Ⅳに定めるものに合致していることを確認するほか次の確認を行う。

- ・道具の破損等がなく、試合に使用できるものであること。
- ・ヘルメットは、最低 8 個あること。
- ・捕手の用具は、最低 2 セットあること。

(イ) 実施時期

各試合会場の第 1 試合の場合は、原則として後攻チームがシートノックを行っているときに、先攻チームのチェックを行い、先攻チームがシートノックを行っているときに、後攻チームのチェックを行う。

その他の試合の場合は、攻守決定後速やかに行う。

(ウ) 実施者

当該試合担当の審判員 4 名により行うこととするが、第 1 試合の場合など審判員の試合前打合せと実施時期が重複する場合は、控え審判員により行う。

(エ) 実施場所

各チームが道具を持参しバックネット裏で行うこととするが、会場の形状や狭隘の程度に応じ各チームが待機している場所に審判団が出向いて行う。

15) 試合会場の区画

(ア) 各試合会場の区画は、全日本軟式野球連盟「競技者必携」の「野球競技場区画線(学童部)」に準じて行う。

(イ) ベンチ、応援席の配置方法は、別に定める。

(ウ) 各小学校の校庭を試合会場にする場合など、狭隘のため外野やファウルテリトリのスペースについて前(ア)の区画を確保できない場合は、会場の形状に応じ適宜調整する。

ただし、ベンチゾーン、応援席の配置は、一塁側と三塁側が対象となるようできる限り配慮する。

(エ) いわゆるホームランネット(ホームランライン)を設置する場合の区画は次による。

Aクラス：二塁ベースの中心から外野に向かって半径 52 メートルの位置(本塁の起点から両翼 70m、センター85m)

Bクラス：二塁ベースの中心から外野に向かって半径 43.5 メートルの位置(本塁の起点から両翼 60m、センター76m)

16) 試合開始前の準備

(ア) 各会場の第1試合の場合

大会規則Ⅱの(3)により、試合開始予定時刻の30分前に攻守の決定を行った後、試合開始予定時刻の20分前に、監督、指導者、選手は「ベンチ入り」する。

大会規則Ⅱの(6)によるシートノックは、試合開始予定時刻の15分前に後攻チームから行う。

先攻チームのシートノックが終了後、グラウンド整備を行い、球審の合図により、両チームの選手は速やかに試合開始のあいさつのために整列する。

(イ) 第2試合以降の場合

前の試合が終了後、前の試合を行った両チームの指導者と大会役員がグラウンド整備を行う。

試合を行う両チームの監督、指導者、選手は審判団の指示により「ベンチ入り」し、グラウンド整備が終了後、球審の合図により、両チームの選手は速やかに試合開始のあいさつのために整列する。

(ウ) 試合開始前の練習

大会規則Ⅱの(8)の試合前の練習とは、第1試合であれば、試合会場のボールデッドラインが確定した後から自チームの「ベンチ入り」までの間、第2試合以降の試合であれば、前の試合の終了後から自チームの「ベンチ入り」までの間、試合会場におけるボールデッドラインの内側で行う練習のことである。

試合前の練習は、自チームのベンチ側のファウルテリトリや外野のフェアテリトリを使って行い、内野は使用しないものとする。

大会規則Ⅱの(8)の規定は、試合前の練習に監督と指導者3名以内(合計4名以

内) の参加を認めるものであり、試合前の練習並びに試合中の選手の安全管理は、4名の監督・指導者の責任のもとで行われるものである。

したがって、試合前の練習において「ノックバットを使ってはいけない」「指導者がキャッチボールをしてはいけない」「選手に素振りをさせてはいけない」といった制限は設けないものである。

(エ) シートノック

大会規則Ⅱの(6)のシートノックは、ベンチに入ることを認められた監督、指導者、選手により行うものであり、監督、指導者が補助員としてシートノックに参加することを認めるものである。シートノックをどのような体制で行うかは、チームの判断に委ねるものとするが、シートノック中の選手の安全管理は、4名の監督・指導者の責任のもとで行われるものである。

ただし、ノックはホームベース付近の一個所から行うものとする。

シートノックは5分間であることから、計測は大会本部が行い、残り時間が2分となった時点で、その旨をノッカーに伝える。開始から5分を経過した場合は、速やかに終了する。

17) 選手の健康管理

(ア) 試合中の選手の健康管理を目的として、選手の保護者2名以内のベンチ入りを認める。

(イ) ベンチ入りした保護者は、選手の健康管理に努め、声を出しての応援や選手への試合に関する指示、撮影は厳に慎むものとする。

(ウ) ベンチに屋根等の日よけのない試合会場においては、チームが所持するテント、ターフ等を設置することができるものとする。ただし、ファールフライのキャッチの支障とならないよう、ボールデッドラインから1メートル程度離して設置すること。応援席にテント、ターフ等を設置する場合も同様とする。

(エ) ベンチと応援席の間にある立ち入り禁止区域に選手用の給水ジャグを設置できるものとする。

(オ) 守備の時間が長い場合には健康維持を考慮し、給水タイムを設ける。給水タイムは、守備時間が連続して概ね20分を超える場合に季節や天候に関わらず適宜な時間を設けるものとする。給水タイムは試合時間に含まない。

守備時間の計測、試合時間の管理は記録係が行うこととする。

18) 試合開始に遅れた選手、監督、指導者

試合に出場する選手、監督、指導者が、何かの事情で試合会場に遅れてきた場合、あくまで試合開始までに会場に到着しなければ試合に出場する資格がないとし、その取り扱いを次のとおりとする。この取扱いは、遅れた理由に関わらず一律に適用するものとする。

(ア) 出場チームは大会規則Ⅱの(1)により定められた時刻までに球場に到着しなければならない。何かの理由で一部の者が遅れてきた場合、試合開始の挨拶で両チームが整列するまでに到着しなければ試合に出場することを認めない。ただし、試合出場が認められない選手であってもベンチに入ることは認めるものと

する。

- (イ) 監督、指導者の場合は、メンバーチェックの際に、「試合開始に間に合わなければ選手登録用紙に記載のある別の指導者がベンチ入りする」旨を申し出ていれば、当該指導者が出場できない監督・指導者に代わりベンチ入りすることができる。
- (ウ) この取り扱いによる試合開始に遅れたか否かの確認、試合出場の可否に関する確認及び相手チームへの連絡は大会本部並びに記録係が行う。

2. Aクラス

Aクラス（出場選手6年生以下）の大会は次のとおりとする。

- 1) Aクラスの正式な試合回数、試合時間、抽選方法、コールドゲームは上尾市スポーツ少年団野球部会大会規則（以下「大会規則」）による。
- 2) 5年生夏季野球大会は次による。
 - (ア) 出場選手は、5年生以下とする。
 - (イ) この大会は、開催の都度配布する「開催要項」に従い運営する。その他はAクラスの約束事に準ずる。

3. Bクラス

Bクラスの大会は次のとおりとする。

- (ア) 出場選手は、4年生以下とする。
- (イ) 正式な試合回数は5回とし、試合時間は70分とする。
延長戦は、時間内で7回までとする。
- (ウ) 同点試合の場合は抽選とする。（大会規則の「Ⅶ 抽選方法」による）ただし、準決勝、決勝はAクラスに準じたタイブレーク方式によって勝敗を決する。タイブレークでも同点の場合は、抽選とする。
- (エ) 投手板、本塁間は15mとする。その他、塁間等は、Aクラスに同じとする。
- (オ) 攻撃は、スリーアウトまたはアウトカウントに関係なく、7得点した時点で攻守交代する。
- (キ) コールドゲームは大会規則の「Ⅷ コールドゲーム」による。ただし、Ⅷの(1)の(ア)の「5回(4回1/2)」は「3回(2回1/2)」と読み替える。
なお、得点差によるコールドゲームは、正式な試合回数が5回であることから、3回(2回1/2)終了時以降の得点差が12点以上の場合が適用される。
- (ク) 審判については、審判部が行うものとする。ただし、秋季大会等においては、主審のみ審判部が行ない、塁審は、各チームが分担することがある。詳細は、各大会前の代表者会議で確認、決定する。
- (ケ) ボークについては、審判員は「ボーク」の宣告を行ったうえで、注意のみとし、ボークのペナルティは適用せず、状況に応じて本来ボークが適用されるべき行為の発生した時点で状況を戻して再開するなどの処置を行う。

- (コ) 1人の投手は1日60球以内を投球できる。試合中に60球に達した場合その打者が打撃を完了するか攻守交代まで投球ができる。
- (サ) 監督が投手の所へ行く回数、守備側のタイムの回数、攻撃側のタイムの回数制限は3回を2回に読み替えて適用する。
- (シ) 前1の12)により、攻守交代時の準備投球を控えの捕手が受ける場合で、チーム事情により年少者や技術的に未熟である者が控えの捕手になるなど危険が伴う場合は、指導者が控えの捕手に代わり準備投球を受けることができるものとする。
- (ス) その他は、大会規則による。

改正 2014年3月16日
改正 2017年3月12日
改正 2018年3月11日
改正 2019年3月10日
改正 2020年3月8日
改正 2022年3月13日
改正 2023年3月12日